

第 35 回 廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって

第35 回廃棄物資源循環学会研究発表会
実行委員会委員長
国立環境研究所 山田 正人

第 35 回廃棄物資源循環学会研究発表会を関東支部により茨城県つくば市で開催するにあたり、実行委員会を代表して皆様のご参加を心より歓迎申し上げます。関東地域では、これまで10回の研究発表会を開催してきました。つくば市での開催は第14回（2003年）と第18回（2007年）に続く3回目、関東支部が発足してからの開催は第28回（2017年）の東京工業大学からの2回目となります。私が所属し、つくば市にある国立環境研究所は本年3月に設立50周年を迎えました。このような記念の年につくば市で研究発表会を開催できることは誠に喜ばしいことです。

今大会は口頭発表と特別プログラムのWeb配信は行いますが、5大会ぶりに平常時の発表会形式での開催の研究発表会となりました。研究発表は、総予定件数264 件、口頭発表169 編、ポスター発表95 編、12の企画セッションとなり、企業展示・市民展示等も行います。特別プログラムは、研究学園都市つくばの象徴の一つである宇宙開発と循環型社会の融合を考えるために、「宇宙のサステナビリティ」と題して、宇宙開発とスペースデブリへの取り組みについて宇宙航空研究開発機構（JAXA）の桜井康行氏に、また宇宙における循環経済についてアストロホールディングス社長兼CEOの岡田光信氏に講演をいただきます。意見交換会も通常形式での開催となり、地元の新鮮な素材をふんだんに使った食事と飲物を楽しみながら、有益な意見交換会となるように準備しております。施設見学会としては、最終日に2つの半日コース「いばらき県西コース」および「いばらき鹿行コース」を企画しました。電子機器やプラスチック容器の製造業におけるリサイクルの取り組み、また民間による廃棄物の溶融事業について紹介する内容になっています。また学生限定で国立環境研究所の見学コースも設けました。

開催地茨城県つくば市は、首都機能のうち、研究機関と大学を移転させるため1970年代から開発が始まり、いまでは約300に及ぶ研究機関・企業と約1万3000人の研究者を擁する田園都市となりました。世界中から研究者が集まる我が国の科学の中心で開催される第 35 回廃棄物資源循環学会研究発表会に、是非ともご参加いただきますよう心よりお願い申し上げます。